

支え合い助け合って、暮らしやすい渋川へ

第二次

渋川学区住民福祉活動計画



「第二次渋川学区住民福祉活動計画」の策定にあたって

渋川学区社会福祉協議会では、平成21年3月に決定した第一次住民福祉活動計画を規範として地域での福祉活動を推進してまいりました。

その後の渋川では住民を取り巻く福祉環境は大きな変化を見せています。第一次計画策定時の平成20年頃と比べると、大型高層マンション建設が相次ぎ、人口は1,900人、24.6%増加しました。その内65歳以上の高齢者は590人増え、高齢化率は12.9%から16.4%に上昇しています。高齢化社会は渋川学区においても確実に浸透していることがわかります。

このような環境の変化の中、渋川学区社協では、平成28年秋、地域内全世帯を対象にして「福祉に関する暮らしのアンケート」を行い、758人から回答をいただきました。

第二次住民福祉活動計画策定委員会では、この貴重な地域住民の思いを可能な限り計画に反映させること、そしてこれからの学区社協の活動において実践出来る計画にすること、の2点にポイントを置き作業をすすめてまいりました。

計画を実現に向けて推進していくためには、社協関係者だけの力では到底及びません。住民の皆様のご協力は不可欠と考えます。交通至便、買物便利な「住みよい渋川」に"住民力"をプラスして、「暮らしやすい渋川」をめざしましょう。

2018年4月 住民福祉活動計画策定委員会

渋川学区住民福祉活動計画 (2018.4 ~ 2023.3)



住民の皆さん 758 人の
ご意見を参考にしました。

世代を超えた
コミュニケーションが
できる街になれば
いいな。
221 人

希薄化した
近所付き合いを
取り戻したい。
301 人

福祉活動を支える
担い手が増えれば
いいな。
195 人

高齢者世帯への
見守り活動が広まって
行けばいいな。
191 人

元気なお年寄りの
活躍する場が
ほしい。
128 人

高齢者が気軽に
立ち寄れる場所、
相談できる場が
あればいいな。
492 人

子どもが地域で
安心して遊べる場所が
欲しい。
444 人

子育てをする
親同士が交流できる場や
機会が欲しい。
76 人

障害者がいつでも
気軽に立ち寄れる場が
ほしい。
171 人

障害者が地域のイベントに
参加し、人々と交流
出来たらいいな。
276 人

災害時の
支援体制や避難場所を
もっと知りたい。
455 人

災害が起きた時、
助けてくれる人が
身近にほしい。
142 人

住民の絆を強める まちづくり

高齢者にやさしい まちづくり

子育てに、地域で取り組む まちづくり

障害者への理解を広める まちづくり

非常時に対処できる まちづくり

あいさつ、声かけを進んで行いましょう。

- ・「おはよう」「こんにちは」「ありがとう」は、魔法の言葉です。
- ・この短い会話からお付き合いが始まります。

ご近所の方との絆を育んでいきましょう。

- ・私たちは一人で生きていけるでしょうか。「自分は大丈夫」と思っても、実はいろいろな人の支えがあつての毎日です。
- ・ご近所とのつながりは自らの将来への大きな財産となります。日頃からのお付き合いを大事にしたいものです。

人生の先輩を“感謝の念”で支えましょう。

- ・今のお年寄りは、戦後日本を復興させ、私たちの豊かな暮らしを築きあげてくれた方々です。

高齢者の経験、技能を引き継ぎましょう。

- ・元気なお年寄りが多くおられます。地域のためにお手伝いしたいとの声があります。
- ・仕事等を通じて培った経験や技能を次世代に伝えることで、活き活きとした日々を送ってもらいましょう。

地域で子育てを支援しましょう。

- ・核家族化・少子化が進んで、子育てについて相談相手のないご夫婦が多くおられます。
- ・子育て仲間の絆を太くし、悩みを共有しましょう。

ハンデキャップのある人達をもっと知りましょう。

- ・障害を持った人やその家族が気兼ねなく歩ける街にしたい。

障害ある人の立場で考えてみましょう。

- ・地域の人たちが集う場にも積極的に来ていただきましょう。
- ・障害者のイベントをお手伝いしよう。

災害に備える意識を常に絶やさないようにしましょう。

- ・地震・台風など大災害が起きた時、冷静でいられる人はほとんどいないでしょう。災害発生のお少なかった草津にあつては尚更です。
- ・地域の防災訓練に先んじて参加し、“イザ！”という時にも心にゆとりを持てるようにしましょう。

- 相互の声かけ運動
(あいさつ、地域行事への共同参加、外出時、回覧板の手渡し)
- 「福祉活動推進員」制度の創設
- ボランティア活動の活性化
- 町内会活動への積極的参加
- 町内集会所の有効活用
- 地域福祉に関する研修

- 地域サロンの一層の充実
- 一人暮らしの方へ見守り隊
- 高齢者による高齢者宅見守り訪問
- 専門的知識を有する人との連携
- セミナー、各種教室の開催

- 子育てサロンの拡充
- 学校との連携を深める。
- 子ども見守り隊の充実
- 子育てネットワークの創設

- 障害者との交流
- 手話・点字基礎講座
- 地域行事に障害者の参加

- 防火・防災訓練の充実
- 「災害時要援護者」の避難支援
- 災害備品の整備

*アンケート結果では類似した回答を含めています。
*複数回答のものがあります。

渋川の皆さんの回答は、このようなものでした

758 人の回答をいただいた「福祉に関する暮らしのアンケート」。
学区社協の広報紙「社協しぶかわ」で集計結果を既にご紹介しておりますが、
質問項目の中から主なものをもう一度振り返ってみましょう。

あなたは、＜福祉＞と聞いて何をイメージしますか。

助け合い、思いやり、ささえあい	60 人
高齢者、障害者	52 人
ボランティア、奉仕	31 人

ご近所とはどの程度の付き合いですか。

あいさつや立ち話をする程度	446 人
互いの家を行き来し、困りごとを相談する。	172 人
ほとんど付き合いはない。	133 人

困った時、どんな人に相談しますか。

知人・友人	541 人	隣近所の人	184 人
かかりつけ医師	154 人	職場の人	135 人
町内会・民生委員	131 人	市役所	116 人

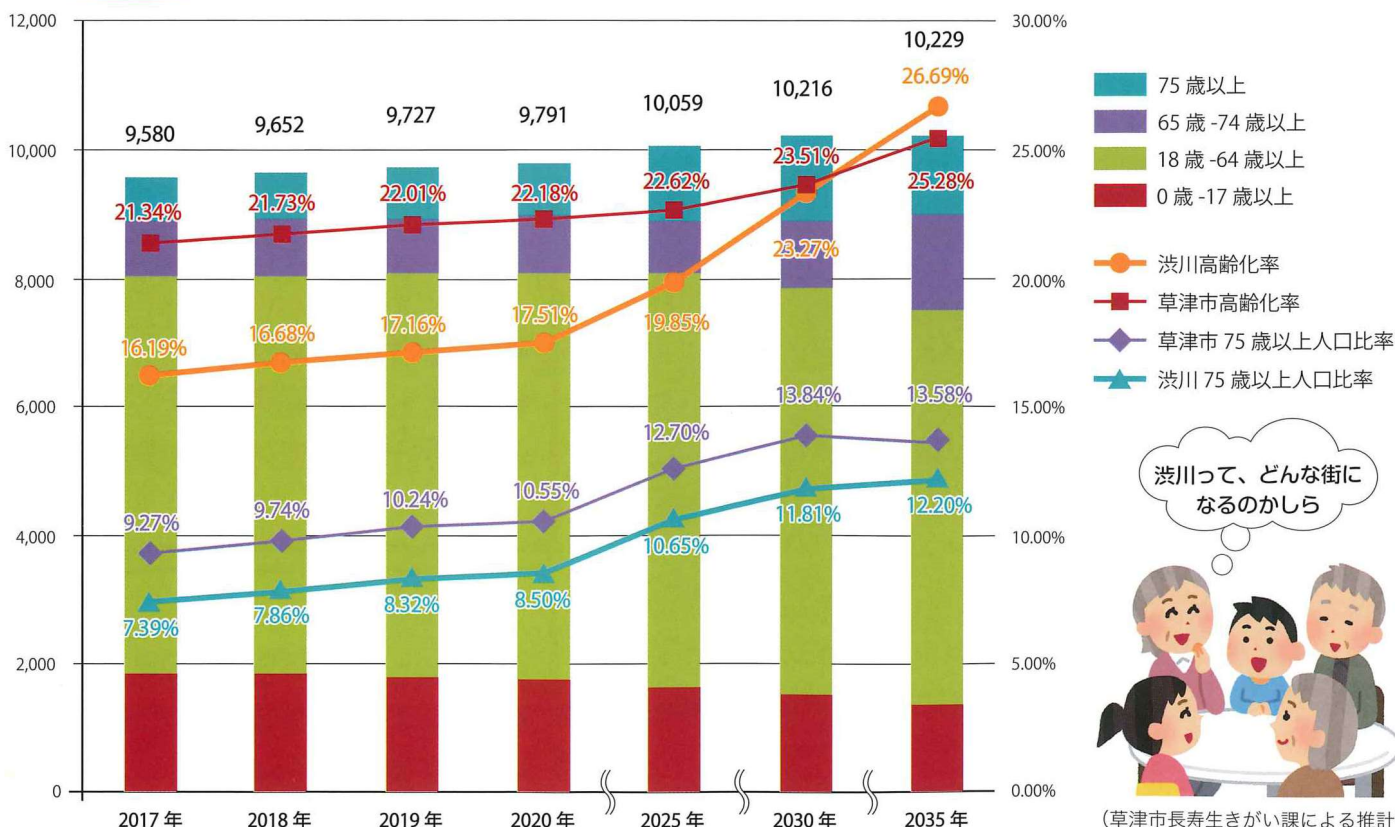
安心して暮らせる街をめざして、自分が出来るようなことは？

子どもへの挨拶運動	377 人	環境美化運動	328 人
高齢者の居場所づくり手伝い	327 人	高齢者への話し相手	303 人
福祉に関する講演会参加	174 人		

(複数回答のものがあります。)

10年後、15年後。
私たちの街・渋川は？

渋川学区人口・高齢化率の推移の見込み



* 渋川学区では人口は今後横ばいで推移しますが、65歳以下の年齢層は減少すると見込まれています。

* 高齢化率は2017年現在16.2%で市内で最も低い値ですが、2020年以降急上昇し、2030年には草津市平均を上回ると予想されています。